

風立ちぬ

第22号 令和6年2月9日(金)発行

1年家庭科「避難所で自分のできることを考えよう」

文責 佐藤正人

2月7日(水)の2校時目に、二階オープンスペースにブルーシートが3枚敷かれていました。「何だ?」と思っていたら、1年生が教室から出てきて座りはじめました。続けて家庭科の今野先生が、「避難所では大体このくらいのスペースで生活することになります。皆さん、いかがですか?」という問いに、「意外と行けるかも」「いや狭い」「楽勝だね」といった声が上がりました。「このスペースで1ヶ月以上生活するとしたらどうでしょう?」「・・・」「避難所には色々な人がやってきます。今からその人々の状況が書かれたカードを配りますから、避難所のどのスペースを活用してもらうかを考えて下さい。」カードを1枚配られる毎にメンバーで避難場所を考えます。



- 高齢者とねこ
 - 夫婦2人ペット連れ
 - 90歳の高齢夫婦
 - 5人家族(小学生2人)
 - 受験生
 - 車椅子の人
 - 物資
 - 8人家族(小学生1人 幼児1人)
 - 高齢者耳が不自由
 - 3人家族(生後2ヶ月の赤ちゃん)
 - 高齢者目が不自由
 - 3人家族(まだ歩けない1歳児)
 - 発熱している人
 - 外国人旅行者(日本語話せない)
 - ストーブ
 - 小学生2人兄弟(親が見つからない)
 - 妊婦さんと夫
- 色々考えを出し合い、結果を図にして提出。↓

「次ぎに、この状況で1週間生活するとします。避難所としての安心・安全を考えて、学校を改善したり生活を工夫したりして、人々の居心地を良くするために、中学生としてできることを考えてみましょう。」

1月の能登半島地震と、1月19日の避難訓練から1年生は「自分事」



<自分ができることを考えよう> 「助けられる人」から「助ける人」へ

状況	自分ができること
初日 人々が体育館に集まってきています。毛布や備品が少いのでついでに入れています。大きい余震が続いています。	①避難所開設の手伝い
2~3日 停電・断水・トイレの水は流れません。飲み水や食料が届き始めました。暑さが厳しく、不安もあり眠れません。	② ・小さな子どもといっしょに遊んであげる。 ・できる限りのせわじ。 ・物資運搬の手伝い。
4~7日 食料や水、衣料などが届き始めます。不安そうに泣いたりケンカする小さな子どもが増えました。高熱の人は足踏がとてつらそうです。トイレの汚れが目立ってきました。臭いもきつくなってきました。段ボールや大きい布などが届き始めました。	

あなたが「できること」「得意なこと」をみんなのために

ふり返り
色々なことを考えて自己設置するのは思ってた以上に大変でした。もし、起こるとしたら、Yちゃんのように、ううんなどをして助ける人になりたいです。

<自分ができることを考えよう> 「助けられる人」から「助ける人」へ

状況	自分ができること
初日 人々が体育館に集まってきています。毛布や備品が少いのでついでに入れています。大きい余震が続いています。	①避難所開設の手伝い
2~3日 停電・断水・トイレの水は流れません。飲み水や食料が届き始めました。暑さが厳しく、不安もあり眠れません。	② ・黄色い紙、黄色いテープ ・子ども遊び(カードゲーム) ・手紙等。
4~7日 食料や水、衣料などが届き始めます。不安そうに泣いたりケンカする小さな子どもが増えました。高熱の人は足踏がとてつらそうです。トイレの汚れが目立ってきました。臭いもきつくなってきました。段ボールや大きい布などが届き始めました。	

あなたが「できること」「得意なこと」をみんなのために

ふり返り
自分たちが助けられる人から助ける人になるのは、想像以上に大変な作業です。実際にあったら、自分から動くようにしたいです。

として考えることができていると思います。

1年生の保護者の皆さん、是非、この授業のことをお家でも話題にして頂き、万が一の時に備えていただけると有り難いです。



一番大事なことは、想像力・創造力



=TACHIKAWAしぐさ=

今年度、幼保・小・中連携の生徒指導部において、「立川しぐさ」の意識化で、望ましい行動、生活態度の育成を目指す実践が行われました。

『立川しぐさ』

- ・にっこり挨拶・・・挨拶はコミュニケーションの第一歩。そこに“にっこり笑顔”を加え、和やかに。
- ・思いやり廊下・・・狭い廊下ですれ違う時、相手を気遣い肩を傾げる。激しくぶつからないように廊下を走らない。
- ・あったか言葉・・・厳しい言葉で相手を攻撃するよりも、相手の良さに目を向け怒りを静め、生活を豊に。



小学校では以前から実践していましたが、立中学生の皆さんにとっても当たり前前の行動ではないでしょうか。覚えていますか？

「江戸仕草」からヒントを得て、立川に生きる私たちも、公の場での立ち振る舞いを見直し、意識しようというわけです。

「江戸仕草」は、人口 100 万人の大都市であった江戸の町方のリーダーたちが互いに気持ちよく共生するために築き上げた、人づき合いの心構えを形にしたものです。人と共存する上で素敵な生き方です。

《江戸しぐさ》の例を紹介します。

傘かしげ：雨の日に、互いの傘を外側に向け、ぬれないようにすれ違うこと。

肩引き：道を歩いて、人とすれ違うとき、左肩を路肩に寄せて歩くこと。

時泥棒：断り無く相手を訪問し、又は、約束の時間に遅れるなどして相手の時間を奪うのは重い罪（十両の罪）にあたる。

うかつあやまり：例えば、相手に自分の足が踏まれたとき「すみません、こちらがうかつでした」と自分が謝ることで、その場の雰囲気を保つこと。

七三の道：道の真ん中を歩くのではなく、自分が歩くのは道の3割にして、残りの7割は緊急時などに備え、他の人の為にあけておくこと。

こぶし腰浮かせ：乗合船などで後から来る人のために、こぶし一つ分腰を浮かせて席を作ること。

逆らいしぐさ：野暮な「喫煙禁止」などの張り紙がなくても、非喫煙者が同席する場では喫煙をしない。

ロク：江戸っ子の研ぎ澄まされた第六感。五感を超えたインスピレーション。

お心肥やし：知識・機能を増やすだけでなく、心・感性を磨く。

見越しののしぐさ：先を読む

フリー百科事典ウィキペディアより



=幼保・小・中連携2年目に向けて=

学校だよりNo.4とNo.5で報告しました、認定こども園からふる・立川小学校・立川中学校の連携による、立川っ子の能力育成に向けた取組みを振り返り、次年度の方針を話し合う推進委員会が開催されました。①多くのことを欲張らず、これを頑張ろう！という活動を重点化し、みんなで確実に積み上げる。（例えば立川しぐさの「にっこり挨拶」への取り組みなど）②教務部会は学校研究部とし、各校研究主任と共に、共通の学校研究テーマを定め、一貫した15年間の教育を可能にしていく。（令和7年度以降の実施を目指す）③特別支援部会は、子ども達個々への支援対応となるため、共通での活動は難しい。情報交換は継続して行うが、部員は学習、生徒指導、健康指導の各部会に所属し活動する。④今まで行ってきたこども園・小学校連携事業、小学校・中学校連携事業をこの会の活動に加え、立川っ子の能力育成の場と位置づける。といった改正案が出されました。次年度も教員一人ひとりが学校教育活動に価値を見だし、資質・能力の習得に向け、色々な手立てを考え実践して参ります。地域の宝である立川っ子の為に、保護者の皆さん、地域の方々にお力添えを頂きたいと存じます。どうぞ宜しく御願い申し上げます。



<https://www.town.shonai.lg.jp/tachichu/>
立川中学校ホームページ

